

機動的に対応すべき重要領域・テーマ

機動的に対応すべき重要領域（案） 人口未来戦略

（課題と現状認識）

- 我が国は深刻な人口減少局面にあり、2070年には総人口が9,000万人を割り込むと推計されている。
出典：国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口（令和5年推計）」
- 地方が人口減少の影響を大きく受けるなかで、本県の人口も、1998年の112.6万人をピークに減少を続けており、少子化対策や子育て支援など様々な対策を講じているものの、近い将来、100万人を割り込むことが予想される。
- 能登半島地震によって、県外への人口流出など人口減少の切実さが増すとともに、県外からの義援金/ボランティアや観光経済効果の大きさなど、関係人口・交流人口の重要性が再認識されている。
- ウェルビーイング指標では、各世代で未来に対する期待感、地域とのつながり等に低い傾向が見られる。自らが住む県や地域の魅力を再認識し愛着・誇りを育むことや、人と人との多様な「つながり」を広げることは、心の拠り所となる居場所や、自分らしく活動できる機会が増え、新たな希望も生み出される。
こうした、県民ウェルビーイングの向上の観点から、関係人口・交流人口の拡大に着目することも必要。

（議論するテーマ（案））

- ①定住人口減少の緩和策、②関係人口増加策、③交流人口増加策

人口未来戦略の検討領域（イメージ）

まずは、本県の発展のエンジンとなる「人口」（定住人口、交流・関係人口）をどうするか、真正面から向き合い、議論を深める

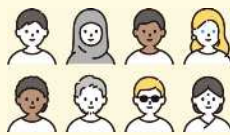
人口未来戦略

エンジンとなる「人口」を増やす

定住人口減少の緩和



関係人口の増加



交流人口の増加



適応戦略

定住人口減少下でもウェルビーイングに暮らす

生産性向上・省力化



コミュニティの維持



安全・安心の確保

